

研究成果報告書

- ・機関及び学部、学科等名 富山短期大学 幼児教育学科、経営情報学科、食物栄養学科
- ・所属ゼミ 子ども家庭福祉ゼミ、創作サークル有志
- ・指導教員 明柴聰史
- ・代表学生 島有紀
- ・参加学生 島有紀、高橋江里佳、池田百花、道林桃香、覚地彩也香、野島菜々子

【研究題目】富山市立老田小学校区の福祉防災対策に関する調査

1. 課題解決策の要約

筆者らは、富山短期大学に在籍しているが、その所在地を含む地域の福祉防災対策について全く知らない。そこで、本研究では、富山市立老田小学校区を研究対象地域とし、フィールドワーク調査を実施した。フィールドワーク調査により、地域の施設等のバリアフリーの現状(福祉)、災害発生時の施設等の機能と設備(防災)、子ども110番の家の所在地(防犯)について明らかになった。

特にその中でもバリアフリー(ユニバーサルデザイン)の設備については、現状の課題があった。

- ①校区内に公衆電話がないこと、
- ②施設等の出入り口に障害者等用のシンボルマークのステッカー等が表示されていないこと、
- ③施設等の出入り口に外国人対応の多言語表記がされていないこと、
- ④視覚障害者誘導ブロックがないことである。

研究を進めていく中で、研究代表者らが保育士となることから、防犯対策についても調査することを加えた。

本調査を終え、地域の福祉・防災・防犯について身近に感じ、考えてもらえるようパンフレットを作成し、地域への全戸配布を行った。そして、参加学生の特性を生かし、「子ども子育て家庭向け」と「一般向け」の2種類を作成した。

2. 調査研究の目的

近年日本全国で災害が増加している。だが、富山県では災害が少ないため防災意識が比較的低いと言われている。そうすると、災害が起こった時にすぐ対処できないのではないかと危機感を思った。自然災害のニュースが多いことは、自分たちの日常がいつか変わってしまうのではないかと不安に感じるが増えた。近年の自然災害の例として、2019年の9月末に来た台風15号は過去最強クラスの台風で台風通過時には強風にあおられて壁に頭を打ちつけたことで死亡したケースもあった。同年10月に来た台風19号ではたくさんの地域に甚大な被害をもたらした。被害を受けた地域の中に富山県に隣接している長野県や岐阜県も含まれていた。富山県に近い県も被害を受けたことから他人事ではないと感じた。

そこで私たちは、まず1つ目の目的として短期大学生の防災意識についてアンケート調査を行い、課題を明らかにし、地域の福祉防災設備等についてフィールドワーク調査を行うこととした。また、保育者をめざす上で子どもの安全を守ることは、重要な専門性である。保育者として、高い防災意識と確かな知識をもつ。災害が他人事だと思っている人の意識改革を図り、身近な防災に興味を持ってもらう。そのための専門性として、自分自身・子ども・地域の防災への理解を深めるた

め、より分かりやすく見やすく、親しみやすい防災マップの必要性作成それらの成果を災害時には地域の方々が安心して避難できるように老田小学校区の福祉・防災・防犯の情報を可視化できるマップを制作することを2つ目の目的とした。防災マップの制作にあたり、子ども達が安心して暮らすためには災害の面だけではなく防犯の面も視野に入れなければいけないと考えた。

3. 調査研究の内容

3-1. アンケート調査

対象：富山短期大学幼児教育学科

1年生 94名配布 76名回答（回答率 81%）

2年生 90名配布 70名回答（回答率 78%）

日時：令和2年10月某日

調査内容：「学生の防災に関する知識や意識について」を問う全7問

調査項目：

- ① 富山短期大学で災害が起きた時に、どこに避難するかについての理解。
- ② 自宅で災害が起こったとき、どこに避難するか知っているかどうか。
- ③ 自宅のある市町村の防災マップ(ハザードマップ)を見たことがあるかどうか。
- ④ 防災や災害時の対応について、家族で話したことがあるかどうか。
- ⑤ 自宅に非常用持ち出し袋はあるかどうか。
- ⑥ 防災に関する標語を知っているかどうか。
- ⑦ 現在、自分の住む小学校区の「こども110番の家」の場所を知っているかどうか。

3-2. 対象地域でのフィールドワーク調査

対象：老田小学校区内の事業所、店舗（以下、施設等とする）

内容：先行研究を基に、施設等の調査項目を検討し、調査用紙を作成。

調査対象となる全46施設等に依頼状を郵送し、調査協力を依頼。

調査協力の承諾を得られた施設等（回答率57%）の施設内の設備及び機能を調査。

4. 調査研究の成果

4-1. アンケート調査の結果

① 富山短期大学で災害が起きた時に、どこに避難するかについての理解。

図1を見ると2年生の方が避難場所を知っている割合が高いのがわかる。そのような結果になるのは、1年時に避難訓練を経験したからと考えることができる。この結果からわずかな差ではあるが避難訓練の重要さがわかる。しかし、わずかな差しかなく短大在学中に災害が起きた時は自分の身を守れるとはいいい難い。保育現場で行われる避難訓練では子ども自身に危機感を感じてもらわなければならない。

② 自宅で災害が起きた時、どこに避難するかについての理解。

図2の通り、1年生と2年生で差はみられなかった。短大での避難場所はわからない学生が多かったが、自宅にいるときの避難場所は知っている人が多く、意外にも普段から地域の防災を意識していることが分かった。

③ 自宅のある市町村の防災マップ(ハザードマップ)を見たことがあるかどうか。

図3の通り、1,2年生共にいいえの割合が多かった。まず、防災マップの全戸配布、存在自体があまり知られていないと考えられる。あまり知られていないということは防災への意識が低いことも一因ではあるが、防災マップが分かりやすく見たくするような内容になっていないことも考えられる。

④ 防災や災害時の対応について、家族で話したことがあるかどうか。

図 4 の通り、1 年生の方が 2 年生よりも家族で話をした割合が高く、災害時のためのコミュニケーションが多くとれていることがわかった。

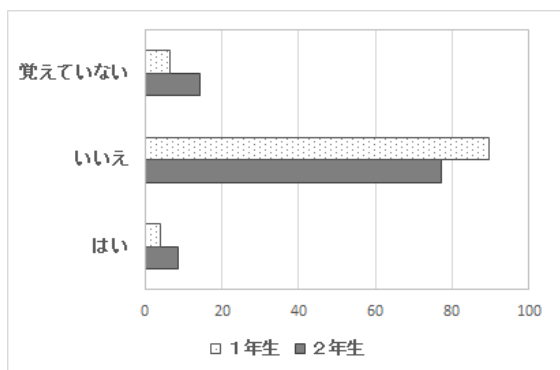


図 1 富山短期大学で災害が起きた時の避難場所

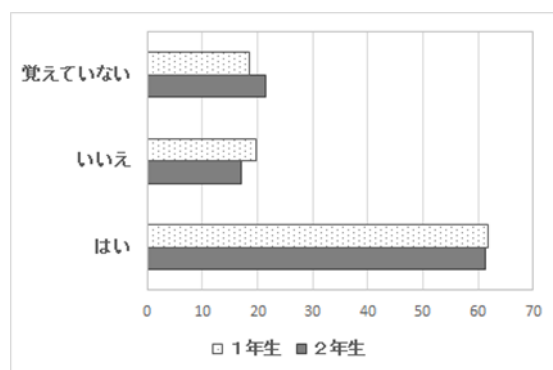


図 2 自宅で災害が起きた時の避難場所

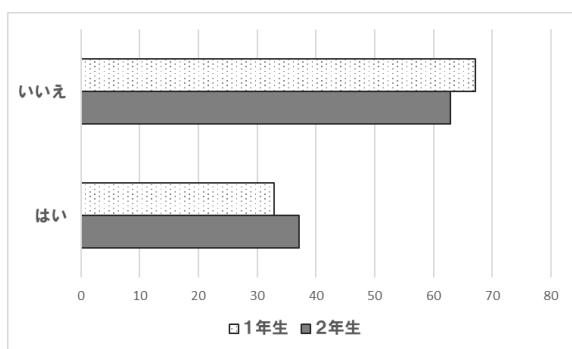


図 3 地域の防災マップを見たことがあるか。

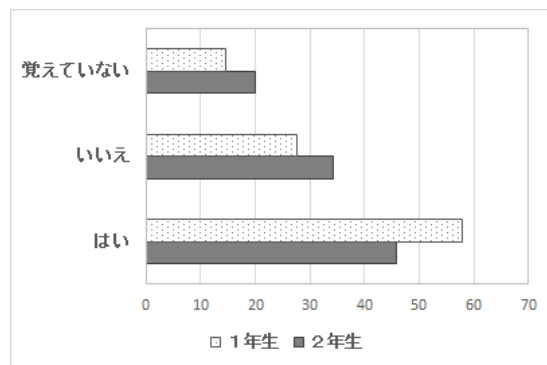


図 4 災害時の対応について家族と話したことがあるか

4-2. フィールドワーク調査の結果と考察

フィールドワーク調査では、施設等のバリアフリーの現状と災害時の対応可能状況について調査を行った。調査項目は以下のとおりである。

- 駐車場の有無
- 出入口の設備（自動ドア・幅・スロープの有無など）
- 外国語・手話対応
- 階段の有無・高さ
- トイレの設備（入口の幅・手すり・ベビーチェア・オストメイト）
- 帰宅困難者対応（休憩室の提供・交通情報の提供）
- その他（防災設備など）

多くの施設で、駐車場は完備されていた。このことは、富山県の車社会が関係しており、災害対策との関連は見られない。出入口は自動ドアと横開きの扉が調査した施設全体の 4 分の 1 ずつ、押し引き扉は全体の 2 分の 1 を占めていた。自動ドアと横開きのドアが少ないことで力が弱い高齢者や子どもは自分で開けることが困難となる。これからの時代は少子高齢化が進み、より自動ドアや横開きを普及する必要があると感じる。押し引き戸だと車いすの人だけでなく妊婦の人などの体が不自由な人が戸を開けにくくなっている。開けにくいということは、避難もしにくいのではないか。そこで、施設側が「声をかけてもらえば開けます。」という表示や張り紙を貼ることを提案してみる。地域が一丸になることで体の不自由な人も暮らしやすい環境づくりになる。

ステッカーの例として補助犬同伴可ステッカーがある。補助犬とは「盲導犬」「介助犬」「聴導犬」の三種類に分かれている。だが盲導犬以外の補助犬はあまり知られていないように思う。

補助犬同伴可ステッカー(図 5)は全国盲導犬施設連合で制作・配布されている。ステッカーがないことで体の不自由な人が気軽にお店に入ることができないと考えられる。ステッカーがあることで

一般の人に補助犬が施設の中にいることを理解し、補助犬への意識が高まるのではないか。ステッカーの存在を知らない人がいると考えられるため、マップに掲載することで多くの人に知ってもらえることができる。実際、盲導犬などの補助犬の入店を許可している施設は多かったが、出入り口にステッカーを貼っている施設は1カ所しかなかった。

さらに驚いたこととして、老田小学校区内に公衆電話が一台もないということだ。このことは、公衆電話の台数が減っているのはスマートフォンが普及したからではないか。実際、老田小学校区には公衆電話が一台もないことから公衆電話がないと携帯を持っていない子どもが緊急の時に連絡することが困難になると考えられる。多くの人に公衆電話の大切さを知ってもらう必要があると思う。災害時には通信制限や停電があることを考えると、それらの影響を受けない公衆電話や災害伝言ダイヤルが必要となる。

地域では、ほとんどの施設が英語対応をしていないので、外国人が暮らしにくい環境となっている。そのため緊急時には安心して避難することができない。これから外国籍の人がもっと増えていくと思うので英語表記の看板、案内図を増やしていく必要性をより感じた。そして、現代であればスマートフォンなどを利用したコミュニケーションも視野に入れるべきではないか。英語対応をしている施設が少なかった。現在の外国からの労働や観光等を踏まえると、多言語表記は今後求められていく課題だといえる。

子ども家庭向けのマップ作成のために、こども 110 番の家の所在地も調査を行った。こども 110 番の家とは、PTA や自治体などが主な活動主体となり、子どもが危険を感じたときや助けを求めてきたときに、子どもを保護し警察などに通報することに協力してくれる家や施設のことである。地域によって異なるが家や施設の前に次の画像のような看板が設置されている。今回、防災マップに【こども 110 番の家】を掲載することで子どもたちが不審者等にあった時「この辺にあった気がする」と思ってもらえ、助けが求めやすくなればと考える。老田小学校区内のこども 110 番の家のデータを地図に起こし、調査した事業所の地図と合わせた。老田小学校区内には子ども 110 番の家が 15 件あった。



図 5 補助犬同伴可ステッカー



図 6 子ども 110 番の家のマーク

表 1 富山市立老田小学校区調査対象施設一覧

東老田地区	①土田鉄工所	西一俣地区	⑫特別養護老人ホーム くれは苑
	②T. トラスト		⑮JA なのはな
	③ケイエヌ電装		⑬kidne (有) キドニィ
願海寺地区	④(株) 富隆興業		⑭(有) 村上モーターズ
	⑤アイビー薬局		⑮北陸予防医学協会
	⑥富山倉庫(株) 呉羽営業所		⑯ネットヨタ富山 (株) 富山西店
	⑦ダンレックス(株) 富山工場		⑰谷運送
中老田地区	⑧老田小学校		⑱アイチコーポレーション
	⑨老田公民館		⑲Honda Cars 富山中央 呉羽西店
	⑲老田保育所		⑳高岡冷蔵(株) 富山工場
	⑳老田郵便局		㉑(株) ダンジョウ
	㉑おざわ歯科医院		㉒長福寺

表 2 老田小学校区の避難所一覧

第 1 避難場所	富山市立老田小学校	災害発生時等において第 1 次に開設する避難所で、主に小学校体育館を指定しています。
第 3 避難場所	富山短期大学 G 館 [学校法人富山国際学園]	第 1 次避難所、第 2 次避難所が収容しきれない場合等において、第 3 次に開設する避難所で、主に高等学校体育館等を指定しています。
福祉避難所	くれは苑 [社会福祉法人陽光福祉会] 特 別養護老人ホーム	災害時の避難者のうち、高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児、病弱者等、避難所生活において何らかの特別な配慮を必要とする方を受け入れる避難所です。 ※市が福祉避難所の開設が必要と判断した場合に、福祉避難所の施設管理者に開設を要請します。

3-4. まとめ

今回の研究を通して、図 2、図 4 の通り学生の防災意識は比較的高いことが分かった。フィールドワークの結果、帰宅困難者が利用できる簡易的な避難所として協力してくれる事業所がほとんどであった。しかし、バリアフリーになっている事業所は少なくそれが課題になる。

「備えあれば憂いなし」という言葉のように、防災マップを使って子どもたちの防災意識の向上だけでなく、家族でのコミュニケーションとなることを願う。そのために、防災マップのデザインは子どもたちが目を引くようなものにし、防災について学べるクイズを取り入れる等、防災教育に役立てたいと思う。

5. 調査研究に基づく提言

今回の研究から、短期大学生の防災意識は決して低くはないものの、行政作成による防災マップの有効活用には、課題があることが明らかとなった。そのことから、富山市老田小学校区を対象としたフィールドワーク調査で明らかになった機能や設備をいかに分かりやすく、マップを作成し防災意識を高め、災害を想定した対策をするのが必要である。

筆者らが作成した福祉・防災・防犯マップは、子ども子育て家庭向けは幼児、小学生が自分たちで考えることができる防災クイズを盛り込み、地域防犯の予防のため子ども 110 番の家にも触れ、家庭での防災・防犯に関するコミュニケーションの一助となることを意図して作成した。また、一般向けの福祉・防災マップには、家庭で常備しておく災害用持ち出し袋を詳細に示したこと、災害時の対策についての知識を図示でわかりやすく表現したことが特長である。この 2 つのマップが地域で、有効に活用され、福祉防災意識の芽生えへとつながり、行政作成のマップに目を向け災害時に必要な自助の力を組織的に備えてほしい。

バリアフリー対策には、今後一人一人が主体となる地域共生社会を実現していくためには、誰もが暮らしやすく自分らしく生きることができるためのユニバーサルデザインの環境整備が求められる。

6. 課題解決策の自己評価

福祉・防災・防犯は身近な問題で、①個人、②家庭、③地域、④社会のレベルに問題があるとわかった(自助・共助・公助)。そこで、自己評価は以下のようにまとめた。

達成

- ①自らの防災意識を高めることができた。保育者としての専門性へとつながった。
- ②防災マップの校区内への全戸配布により、家庭に向けて防災意識の芽生えへの一助となるよう発信することができた。

今後の発展(期待と継続)

- ③地域で、福祉・防災・防犯マップを用いオリエンテーリングを実施したい。
- ④社会全体がバリアフリー化、防災意識の向上、防犯対策により安全安心の街づくりへとつながって欲しい。

表3 老田小学校区福祉防災対策等設備一覧

地区	地図No.	名称	駐車場		玄関廻り				トイレ			通路	AED	補助犬	消火器	電灯	手話・筆談対応	子育て	外国語対応	帰宅困難対応		避難						
			駐車場	車いす用	スロープあり	段差なし	90cm以上	自動ドア	点字ブロック	洋式トイレ	車いす用	オストメイト	ベビーカー	180cm以上	AED	受入れ可	消火器・表示	懐中電灯の有無	手話・耳マーク	授乳室・キッズスペース	流し台	給湯器	外国語対応	貸し出し	休憩場所の提供	貸し出し	電話の貸し出し	避難場所
東老田	1	土田鉄工所	P						WC						消火器	電灯	筆				可	可	可					
	2	T.トラスト	P						WC					補助犬	消火器	電灯	筆				可	可	可					
	3	ケイエヌ電装	P												補助犬	消火器		筆				可	可	可				
願海寺	4	(株)富隆興業	P						WC						補助犬	消火器	電灯	筆				可	可	可				
	5	アイビー薬局	P		▲	↻	♿	WC				↔		補助犬	消火器	電灯	筆	👤				可	可	可				
	6	富山倉庫(株)呉羽営業所	P						WC						補助犬	消火器	電灯	筆				可	可	可				
	7	富山短期大学G館	P	♿	▲	↻	♿	WC	♿			↔	👤	補助犬	消火器	電灯	筆	👤				可	可	可			第3次	
	8	あらかき接骨院	P						WC						補助犬	消火器	電灯	筆	👤		★	可	可	可				
	9	ダンレックス(株)富山工場	P						WC							消火器	電灯	筆	👤				可	可	可			
中老田	10	富山市立老田小学校	P		▲	↻		WC	♿	👤	👤	↔	👤	補助犬	消火器	電灯	筆	👤				可	可	可			第1次	
	11	富山市立老田保育所						WC							消火器	電灯	筆	👤				可	可	可				
	12	老田公民館	P		▲	↻		WC				↔	👤	補助犬	消火器	電灯	筆	👤				可	可	可				
	13	老田郵便局	P					WC							補助犬	消火器	電灯	筆	👤			可	可	可				
	14	おざわ歯科医院	P	♿	▲			WC					👤	補助犬	消火器	電灯	筆	👤				可	可	可				
	15	くれは苑(特養)	P	♿	▲	↻	♿	WC	♿			↔	👤	補助犬	消火器	電灯	筆	👤		★		可	可	可			福祉	
	16	JANAのはな	P					WC							補助犬	消火器	電灯	筆	👤				可	可	可			
	17	kidne(有)キドニ	P					WC				↔			補助犬	消火器	電灯	筆	👤		★	可	可	可				
西二俣	18	(有)村上モーターズ	P					WC								消火器	電灯	筆	👤			可	可	可				
	19	北陸予防医学協会	P					WC				↔	👤	補助犬	消火器	電灯	筆	👤				可	可	可				
	20	ネットヨタ	P	♿	▲	↻	♿	WC	♿		👤	↔	👤	補助犬	消火器	電灯	筆	👤				可	可	可				
	21	谷運送	P					WC				↔			補助犬	消火器	電灯	筆	👤			可	可	可				
	22	アイチコーポレーション	P					WC				↔	👤	補助犬	消火器	電灯	筆	👤				可	可	可				
	23	Honda Cars	P	♿	▲	↻	♿	WC	♿			↔		補助犬	消火器	電灯	筆	👤			★	可	可	可				
	24	高岡冷蔵(株)富山工場	P					WC				↔			補助犬	消火器	電灯	筆	👤				可	可	可			
	25	(株)ガンジョウ	P					WC				↔			補助犬	消火器	電灯	筆	👤				可	可	可			
	26	長福寺	P					WC				↔			補助犬	消火器	電灯	筆	👤				可	可	可			

【シンボルマークの説明】

	⇒ 駐車場あり		⇒ 車椅子駐車場あり		⇒ スロープあり		⇒ 段差なし		⇒ 通路幅180cm以上あり
	⇒ 入り口幅90cm以上あり		⇒ 自動ドアあり		⇒ 点字ブロックあり		⇒ 洋式トイレあり		
	⇒ 車椅子or多目的対応		⇒ オストメイト(人工肛門・膀胱の洗浄)対応		⇒ ベビーカーあり		⇒ AED設置あり		⇒ 補助犬入店あり
	⇒ キッズスペースあり		⇒ 授乳室あり		⇒ 流し台あり		⇒ 給湯器あり		⇒ 英語対応可
	⇒ 消火器あり		⇒ 懐中電灯あり		⇒ 手話対応あり		⇒ 耳マークあり		⇒ 筆談対応あり